

補強コンクリートブロック造の建物の耐力度簡略調査票

(表面)

IV 学校種別	V 整理番号
---------	--------

I 調査学校	都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	III 結果点数					
	調査者	職名	一級建築士登録番号	氏名	④	⑤	A 構造耐力	耐力度				
									予備調査者	会社名	一級建築士登録番号	氏名
II 調査建物	建物区分	棟番号	階数	面積	建物の経過年数		被災歴		補修歴		C 立地条件	点

A 構造耐力	(a) 水平耐力 q	階	方向	耐力壁厚さ t(mm)	耐力壁長さ Σl(mm)	床面積 A(m ²)	壁量 L(mm/m ²)	標準壁量 L _N (mm/m ²)	方向別水平耐力	q _x または q _y の最小値	判別式	評点	評点合計
		桁行 X	張間 Y	q _x	q _y	q =	1.0 ≤ q	1.0	⑦	⑧	⑨	⑩	
							0.5 < q < 1.0	直線補間					
	(b) 偏心率 Re	偏心距離 e		弾力半径 γ _e		Re = e / γ _e		Re の最大値	判別式	⑪	⑫	⑬	
		桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	桁行方向 X	張間方向 Y	Re ≤ 0.15	1.0				
		0.15 < Re < 0.3		直線補間		0.3 ≤ Re		0.7					
	(c) 臥梁・スラブの構造 m	臥梁寸法 m ₁		スラブ(屋根) m ₂		m = m ₁ × m ₂		評点	⑭	⑮	⑯	⑰	
		規定を満足	規定を満足しない	規定を満足	規定を満足しない	1.0	m = 1.0	1.0					
		1	0.9	1	0.9	0.81	m = 0.81	0.8					
	力 ②基礎構造 β	木杭		RC杭・ペダスタル杭		独立基礎・その他杭・不明		評点	⑱	⑲	⑳	㉑	
0.8		0.9		1.0		該当値の最小値	㉒	㉓	㉔				

B 健全度	① 経年変化 T	経過年数 t	判別式(建築時からの経過年数)	経過年数 t ₂	判別式(長寿命化改良後の経過年数)	評点	⑳	㉕	㉖	㉗	
	② コンクリート中性化深さ a	a = 0.37√t =		t: 建築時からの経過年数		判別式	評点	㉘	㉙		
		a ≤ 1.5cm		1.0		㉚					
		1.5cm < a < 3cm		直線補間		㉛					
	③ 鉄筋腐食度 F	部位	柱・梁	壁	床	最低ランク	評点	㉜	㉝		㉞
		ランク	1	2	3	㉟	㊱	㊲	㊳		
	④ ひび割れ C	部位	柱・梁	壁	床	最低ランク	評点	㊴	㊵		㊶
		ランク	1	2	3	㊷	㊸	㊹	㊺		
⑤ 不同沈下量 φ	部位	内・外壁	基礎梁及び基礎立上がり	最低ランク	評点	㊻	㊼	㊽			
	ランク	1	2	3	㊾	㊿	㋀	㋁			
⑥ たわみ量 θ	ランク				評点	㋂	㋃	㋄			
	1	2	3	㋅	㋆	㋇	㋈				
⑦ 構造使用材料 M	ブロック種別	旧A種	旧B種	旧C種	A種	B種	C種	判別式	評点		
	0.3	0.5	0.8	0.5	0.8	1.0	当該値の最小値	㋉	㋊		
⑧ 火災による疲弊度 S	程度	構造体変質	非構造材全焼	非構造材半焼	煙害程度	当該階の床面積 S ₀	被災率 S = S _i /S ₀	判別式	評点		
	被災床面積 S ₁	S ₂	S ₃	S ₄	S = 0	1.0	㋋	㋌			
	評価後被災面積 S _i = S ₁ + S ₂ × 0.75 + S ₃ × 0.5 + S ₄ × 0.25 =				0 < S < 1	直線補間					

C 立地条件	① 地震地域係数	② 地盤種別	③ 敷地条件	④ 積雪寒冷地域	⑤ 海岸からの距離	評点	㋍	㋎
	四種地域	1.0	一種地盤	1.0	平坦地	1.0	㋏	
	三種地域	0.9	二種地盤	0.9	崖地	0.9	㋐	
	二種地域	0.85			支持地盤が著しく傾斜した敷地	0.9	㋑	
一種地域	0.8	三種地盤	0.8	局所的な高台	0.9	㋒		

(裏面)

学校名

調査者の意見

1. 調査建物の各階の平面図、断面図を単線で図示し、耐力壁は、他と区別できるような太線とする。
2. 寸法線と寸法(単位メートル)を記入する。
3. 平面図に、鉄筋腐食度の測定位置を記入する。
4. 余白に縮尺、建築年、延べ面積を記入する。

